

障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業 導入状況									
基本情報	導入年度	令和4年度	令和4年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和6年度	令和6年度	令和6年度
	法人名	(福)ゆたか福祉会	(福)大幸福祉会	(福)新生会	(福)大幸福祉会	(特非)Hands	(福)ひまわり福祉会	(福)貴愛会	(福)光洋福祉会
	施設・事業所名	ゆたか希望の家	ユニオンワークスー色ハウス	あしたの丘	ユニオンワークスー色ハウス	藤里	グループホーム風の丘	障害者グループホームなの花畑	障害者支援施設 一粒荘
導入に当たった情報	介護ロボット等の種別	移乗介護	見守り・コミュニケーション	見守り・コミュニケーション	見守り・コミュニケーション	移乗介護	入浴支援	移乗介助	見守り・コミュニケーション
	介護ロボット等の製品名	移乗サポートロボット Hag T1	眠リスキャン	眠リスキャン	眠リスキャン	マッスルスーツ Exo-Power	セキスイ wellsリフトキャリーWLC-200	移乗サポートロボット ハグ	眠りSCAN/NN-1530
	購入又はリース・レンタルの別	購入	購入	購入	購入	購入	購入	購入	購入
	リース・レンタルの場合の契約期間	-	-	-	-	-	-	無し	無し
	導入機器 1 台当たりの金額	860, 000円	121, 000円	119, 900円	121, 000円	214, 280円	1, 500, 000円	880000円	121, 000円
	導入台数	1台	12台	17台	10台	4台	1台	1台	10台
	セットアップ費用	なし	34, 320円	なし	28, 600円	なし	なし	なし	1, 859, 000円
事業に関する情報	介護ロボット等の使用状況（使用する業務・使用頻度等）	車いす⇄ベッド・トイレ等の移乗に使用。 起床、就寝介助 2回/日 トイレ介助 5回/日	利用者の就寝時に体調、情緒の変化などを数値化して的確に把握 毎日、就寝時～起床まで使用	・3月下旬、眠リスキャンを活用した業務の効率化に向けた職員間の業務内容の検討。 ・睡眠、呼吸状態、体動等の把握が必要な慢性腎不全の利用者を中心に使用対象者を選定。その他、必要に応じて、コロナ等の感染症等により静養中の利用者の身体状況の把握に使用予定。 ・4/14、設置台数の増加（5台⇒22台）のため、メーカーによるネットワークの設定・調整。	利用者の就寝時に体調、情緒の変化などを数値化して的確に把握 毎日、就寝時～起床まで使用	重度の利用者様の移乗介助 重度の利用者様の入浴介助	毎日の入浴介護に使用。	利用者の移乗介助、使用時間24時間、利用回数1日30回程度。	常時稼働、主に夜勤の時に使用。 日中は主にデータの分析時に使用。
	介護ロボット等の導入効果（導入による業務改善状況等）	介助職員の腰痛軽減など身体的負担の軽減や、二人介助が必要だった利用者が1名での介助になり、負担軽減と時間削減につながった。また、利用者が自分の足で踏ん張ることで、心身機能の低下が防げる。	就寝時巡回業務時間の短縮になり、体調不良の際、医師に普段の様子（バイタル、睡眠状況など）を的確に伝えることが可能となった。また利用者は、巡回時に睡眠を妨げられることが無く熟睡出来ている。	・一定エリアの眠リスキャン導入により、モニター画面による安否確認により、過度な訪室業務を減少させ、職員の身体的、精神的負担の軽減に繋げる。 ・利用者の睡眠、呼吸状態を適宜把握することにより、利用者の転倒事故等を未然に防ぐ。 ・職員の訪室による利用者の睡眠を妨げる回数の減少を目指す。	就寝時巡回時間の短縮になり、体調不良の際医師に普段の様子（バイタル、睡眠状況など）を的確に伝えることが可能となった。また利用者は、巡回時に睡眠を妨げられることが無く熟睡出来ているため、起床時の介助などがスムーズに行える。また日中の活動中に昼寝の必要性が少ないと報告を受けている。	車椅子への移乗は腰への負担軽減あるが、一つの動作の介助の継続ならば使用は可能だが長時間は厳しい。	移乗に関する職員負担の軽減、利用者の安全確保、対応する人員の削減ができている。	移乗介助が職員1人で出来る様になった為、もう一人の職員を待つ必要が無くなり待ち時間が少なくなった。腰痛持ちの職員でも1人で介助出来る為、身体的に楽になった。利用者も職員を待つ時間が少なくなり、対応して貰えることが嬉しい。	夜勤帯で巡視していない時間の利用者の睡眠状況が分かり、てんかん発作の利用者の状況等が分かる。また、看護師や職員の引継ぎの時にそのデータが役に立っている。
	介護ロボット等の導入の課題	介護ロボット導入に当たり、使用する利用者の丁寧なアセスメントが必要。また、介護ロボットに関する情報が少ないので、比較検討する余地が少ない事が課題と考える。	ベットに敷いて検知する機器であるが故の特性で、体格によって検知の精度の差があるようである。位置や検知の感度などこまめに修正し非常勤職員を含めた全員が機器の特性や活用などに注視してゆく必要がある。		ベットに敷いて検知する機器であるが故の特性で、位置や検知の感度などこまめに修正し非常勤職員を含めた全員が機器の特性や活用などに注視してゆく必要がある。とったうえで個別の行動状況を推測してゆく必要がある。不必要な巡回により睡眠の妨げになることもある。	①ロボットの装着にベルトを締めたり空気を入れるのに時間がかかる。慣れが必要。 ②大きな施設で同じ作業の継続ならば可能と思われるが、狭いトイレ介助や入浴介助では小回りができない。 ③職員一人一人の体形なども違いがあり装着時に一人でベルトを絞め直すことに時間がかかる。	利用者への事前説明が困難のため、突然の機器利用に拒否や混乱の可能性がある。	利用者が手すりを掴まることを前提としている機器な為、麻痺がある人にとっては職員1人での介助は難しく2人での介助が望ましい、体幹を支えてくれる様な機能があればより使える幅が広がる。	画面に反映されるまで15秒ほどタイムラグがあるので、瞬時の対応が難しい。